

意見交換会会議概要

招集年月日 令和2年2月4日(火)

招集場所 地域交流センター 交流ホール

出席議員 13名

1番	静 好洋	2番	田村 信幸	3番	山崎 篤史
4番	山上 健造	5番	福永 敏行	7番	古野 司
8番	田中 久保	9番	照原 廣行	10番	株田 茂
11番	連記かよ子	12番	新居 敏弘	13番	久川治次郎
14番	大澤夫左二				

欠席議員 1名

6番 柏木 岳

欠 員 なし

オブザーバー にぎわい推進課長 幾田 博行

議会事務局 2名

局長 岡川 千歳 書記 東上 由里香

那賀町商工会 11名

山城 啓孝	谷崎 史明	田中 勝	藤澤三喜恵
福永 泰明	前田 政治	中泉 吉夫	船古 恵子
石井 裕通	清野 公弘	山本 英世	

午後03時00分 開会

進行：久川 治次郎

議長あいさつ

○古野議長：皆さん、こんにちは。商工会の皆様方においては本日の意見交換会を議会の方から提案をしたところ、日中のお仕事のお忙しいところ、皆様方に出席をいただき、真にありがとうございます。日頃は那賀町議会の運営・活動に対して大変なご理解、ご協力を重ねてお礼申し上げます。

過去に2回、車座会議を実施させてもらっているが、色々な意見をいただき、それを具体的に施策に反映させていこうということで、我々議会も取り組んできている。本町が合併をして15年を迎えようとしているが、合併直後1万1千人余りだった人口が、現在では3千人減って8千人余りとなっている。年間約200人減ってきている。面積は減らないが、地域としての活力が圧縮してきている。そのような中で商工会の皆様は地域に根付いた活動をしていただいていると思うが、私も毎年総会に出席をして資料を見せていただいているが、毎年、会員数が減っていて、大変厳しい状況であると感じている。特に小売業で商売をされている方の意見を聞き、我々がそれを行政に繋いで政策に反映していけたらよいと思っている。今日は2時間という限られた時間であるが、この意見交換会が有意義なものになるようお祈り申し上げて冒頭のあいさつとさせていただきます。

那賀町商工会会長 あいさつ

○山城会長：本日はご多忙中にも関わらず、皆さんにお集まりいただき、真にありがとうございます。また、町議会議員の皆様には商工会運営に対してご支援、ご理解をいただいていることを厚くお礼申し上げます。本日、このような意見交換会という機会を設けていただきましたことを重ねてお礼申し上げます。

近年、商工会では那賀町の暮らし応援します券から始まり、地域で経済を循環させていこうという事業の実施、地域の課題を解決するような買い物支援事業、町外から人やお金の流れを入れる需要開拓事業を実施している。この3本の柱を達成することによって商工業の活性化に繋げることができると大変力を入れている事業である。効果が表れるのはまだまだ先になろうかと思うが、効果が目に見えるように商工会の事業を進めていきたいと思っている。

近年の那賀町の経済を見てみると地域の経済が潤沢に回り始めている面も見られる。銀行の支店長と話をしていても地域の経済が動いているよという言葉をいただく。ただ、人口減少や高齢化による経済衰退の波が確実に押し寄せている。人手不足や働き方改革、消費税の増税によって経営を取り巻く環境は厳しくなっている。商工会でも会員の退会や閉店、廃業

が目立つようになってきている。非常に危惧している状況である。今、手を打たなければ、町から商店がなくなってしまうのではないかと危惧している。5年前、10年前にこのようになると言われていたが、ここに来て現実的なリスクが我々に迫って来ている気がする。今後、更なる商業の支援策と既存の店舗が1日でも長く営業できるように商店に対する応援策をこの機会に町行政にお願いできればと思っている。

また、商工会の運営を考えてみてもこれから起業や創業を増やしていかない限り、商工業が成り立たなくなると考えている。この那賀町で創業したいという人たちのために補助金制度の確立をできないかと思っている。移住者や事業承継のためにもUターンを呼び込むにもまずは仕事である。そのためにも那賀町に手厚い創業支援制度の支援策を考えていただきたいと思う。今日の意見交換会で活発に意見を出していただき、有意義な会になりますようご協力お願い申し上げます。

自己紹介

商工会事業について

○石井事務局長：資料により説明をする。

意見交換

討議テーマ

- ① 商店の廃業等に対する対応方について
- ② 今後の那賀町の商業等の振興策について

進行：那賀町商工会副会長 田中副会長

○連記議員：平谷地区でも竹内商店がやっていない。岡崎ストアは去年の暮れで店を閉めた。小浜地区でもみかみ食堂が閉めた。小売業がやっていけない状態である。折坂商店は木沢、北川、川俣の方へ入っている。ガソリン代も大変であるので、支援策はないものかという相談もいただいている。今後も続けてもらうためには支援策はあると思う。小売店がなくなるということは高齢化が進んでいる那賀町にとっては、買い物に行けなくなる。そのような点を皆さんで考えてほしいと思う。

○田中副会長：ありがとうございます。昨年、消費税の引き上げもあってレジの対応等の補助金や商工会の方でもお世話をさせてもらった。原因の一つとして高齢化ということもあると思う。

○山城会長：大変貴重な意見をいただきありがとうございます。小規模事業持続化補助金が国の制度で4年ぐらい前からできている。小売店にとっては非常にありがたい事業であって、上限50万で、看板や冷蔵庫など幅広く使うことができるような支援策であるが、認定をもらうためには膨大な資料を作ら

ないといけない。「めんどくさくてできない」という会員がいる。支援策としてはよいものであるので、昨年度も19件あった。個別の支援ができるようなものが町単位でできたら非常にありがたい。今までやっているところもないし、導入するには難しいところもあるが、何とか勉強をして制度化できたらよいと思っている、お店自体のガソリン代を支援するとか、小売業の店が少しでも長く続けられるような制度を皆さんと一緒に考えていけたらよいと思っている。

○田村議員：商工会の加盟会員が119件あるとして会員の中でも職種別、業種別というので、後継者も含めて関係が深いところとまだ大丈夫であるというところがあると思う。分かる範囲で教えてほしい。旧5ヵ町村で分野別で業種の数値があるのか。

○石井事務局長：今、商工会の会員は325名であるが、業種別での内訳には重点を置いていない。小売業や建設業など色々あるが、その数には注目をしていない。すぐに出てくるような数値は持っていない。今年に限っては、小売業の廃業が目についている。この1年間で20ぐらいの店が廃業されている。

○田村議員：325会員の中からこれからどんどん廃業が進むと会員数が減っていくと思う。町村合併から14年になると思うが、とりあえずの目安として町村合併をした年の会員数は分かるか。

○山城会長：430ぐらいであった。

○田村議員：商工会の会員も430から325と100人ほど減っている。その中でも小売業の廃業が多いように見受けられる。テーマ①の廃業等に対する対応であるが、後継者の生活環境や子どもの教育、福祉など町の政策と色濃く関わる必要がある。町がやっている政策と商工会の課題が重なるのではないか。商工という狭い範囲だけで話をするのも大事であるが、那賀町で実施している施策の中、総合戦略の第2期が始まるので、そこにより反映できるような施策をしていければ、我々議員も今後、総合戦略に対して3月議会など意見を述べ合う場があるので、多少なりとも協力できる部分があると思う。

○大澤議員：制度は事務的に手続きが難しい。商工会の事務局で指導して高齢者の亭主でも利用できるような体制は取れないのか。

○山城会長：やっていく中で、経済計画を立てないといけないなど、難しい資料の作成が出てくる。年配の人であれば、「それほど難しいのであれば、もういいわ」と言う人もいる。手続きを簡素化してほしいという要望は出している。募集期間が決まっているので、1ヶ月以内に決めてもらわないといけない。1年中受付してくれないので、那賀町版で年間通じて受付してくれるような制度があればよいと思う。商工会の職員も協力していて、難しいことは言っていないが、やっていく中で、「3ヶ月後の経営はどのようにしていくか」など聞くことが多すぎる。

○大澤議員：最初はできても3ヶ月後の経営を出さないといけない。亭主に「もういい

わ」と言われたいようにもう少し利用しやすい制度に工夫してほしいと思う。

○株田議員：木頭の商店では後継者がいなくて続けることができないということもあると思うが、特に生鮮食料品の卸業者の問題がある。仕入れに行けないので、卸売業者に品物を供給してもらわないといけない。それがどんどん細まっているので苦労している。町内で協同支援のようなことも考えたらもう少し町内の商店が延命できるのではないかと思う。

○田中副会長：卸売業の廃業ということで、ここ3年ぐらい前にも廃業しているようでそれに伴って何店舗か廃業になっている。卸売業者を変えて営業している店舗もあるのか。

○株田議員：宮浜の業者に協力いただいて続けている店もある。もう1軒、やめそうだという話もあるので、困っている。

○大澤議員：生鮮食品のような一番身近で大事な店がなくなっていく。亭主が続ける意思があれば、バイトの人を雇う人件費に対する支援はできないのか。行政は個人に直接支援できない。実態に合ったような支援策が必要ではないか。

○田中副会長：人件費に対する支援は商工会では扱っていない。

○田中議員：なぜ、那賀町の店は土、日に休むのか。奥はほとんど休んでいる。値札は内税にしてもらわないと計算できない。国民年金の人は月4万ぐらいで生活している。町に行くと内税で表示している店がよく売れている。那賀町内の店のガイドブックを作ってほしい。驚敷にどんな店があるのか分からない。国道沿いは分かるが、旧道に入るとどんな商売をしているか知らない。奥へ行くと尚更分からない。那賀町に色んな農産物がありながら他所から仕入れている。もっと那賀町の農作物をPRしてほしい。行政に補助ばかり頼ってはいけない。木沢で出資金を募って地域おこし協力隊の人が事業をしようとしている。商工会は土建業という大きな株も抱えているので、そのような人たちももっと出資をして商工会で色んな組織を立ち上げて那賀町のために貢献してもらわないといけないと思う。

○田中副会長：宅配サービスのチラシはあるが、町内にどんな店があるかというようなガイドブックはない。

○田中議員：勝浦の「よってネ市」にみかんがたくさん売っている。那賀町は柚子がたくさんありながら綺麗な柚子がない。全部町外に出荷している。自分だけ儲かればよいと思っている人ばかりである。地元の小売業の店に卸して売ってほしい。木頭の柚子はもっと綺麗なものを出品しないと無消毒の柚子は売れない。「よってネ市」に行っても病気だらけのみかんは売れない。木頭から直送することによって値打ちがある。そういうものも考えてほしい。

○田中副会長：町外の方が来て「どこかに柚子はないか」と尋ねられた時に紹介する店がないということか。

○田中議員：はい。

- 田中副会長：ありがとうございます。
- 山上議員：議会側ばかり喋っているの、商工会の人の意見も聞きたい。
- 前田さん：土、日に営業をしていないのは恐らくお客さんが来ないからである。
- 田中議員：私が言っているのは、町内のお客さんではなく、町外のお客さんである。
- 前田さん：町外のお客さんを引っ張れということか。
- 田中議員：町外から来た人にしてみれば、ガソリンスタンドも開いてない。奥へ行けば、店がないので、驚敷のコンビニで買って行くしかない。私も驚敷や相生で買い物して帰っている。
- 前田さん：開けても採算が合わないということであると思う。
- 田中議員：それが悪循環になっている。
- 前田さん：私の店は48年間、年中無休であるが、最近、日曜日は閉めようかと思うぐらい暇である。日曜日は下に買い物に行く人が多い。奥はもっと厳しいと思う。もう少し、地元の商店を活用してほしい。毎週、木曜日に地元のボランティアグループが下で材料を買ってきて、パンや総菜や弁当を作って農協や役場の前で売っている。素晴らしいことをしていると思うが、正直、木曜日が一番暇になっている。うちの店は弁当や寿司を一生懸命売っているが、木曜日は弁当も寿司も減らしている。恐らく、地元のものを使ってほしいと言っても、採算も合わないし、食材も種類が揃わないと思うが、もう少し地元の商店に配慮してほしい。買い物に行けないような家を回って売りにいくのはよいと思うが、役場や農協へ行って売るのはやめてほしい。普段、うちで弁当を買ってくれている人も木曜日は来ない。地元の商店を大切にするという意識も薄くなってきていると思う。
- 株田議員：大変、重要な事であると思う。最近は生協の利用が多い。インターネットで買い物をしている人も増えてきている。私も「地元の商店で買いましよう」という運動をもっとしないといけないと思う。
- 熊原議員：私も株田さんと同じ意見である。昨日は節分で、ある店から、「恵方巻きを買ってほしい」という電話があった。その店に恵方巻きを取りにいくと大勢の人が買いに来ていた。値段は高いが、地元のものを使って巻いて販売している。その店は努力されていると思った。下の大きなスーパーはカートで買い物をして終わりであるが、地元の店はいろんな会話ができる。私の回りで、「今日はコメりに買い物に行く」という話をよく聞く。何か魅力があるのかなと思う。
- また、車座会議で高校生が総合型の店がほしいという意見が出ていた。そこへ行くと買い物もできてご飯も食べることができるような総合型の店があればよいと思う。驚敷辺りに1日遊べるような店があれば、若者は残ってくれるのではないか。もう少し、人を呼ぶことができるような対策を考えていかないといけない。
- 田中副会長：地元ならではの営業の仕方があるのではないかと思う。
- 福永さん：今の話を聞かせてもらっていたら、議員さんは今日は何をしに来てくれたのか。これからの商工会に対して我々はこうしてほしいということは言っ

ていない。過去にずっと商工会がしてきたことをやっている。新たに何をしてくれるということはないと思う。皆さんの意見を聞いて今後の商工会活動を活かしたいというようなことであると思うが、言ったところで、何かしてくれるとか、やりましょうということになるのか。那賀町が合併する5、6年前ぐらいから生協が始まった。那賀町の商工会も「どうするのか」という話になったが、個人でしているし、買うのも個人の自由なので、仕方がないことである。今日、来てくれている議員さんで生協に入っていないという人は何人いるのか。

(やっていない人が挙手する)

○福永さん : ほとんどの人がやっている。これが一つの問題である。小売業と言っているが、セブンイレブンができて買いに行っていない人はいるか。

○岡川事務局長 : いないと思う。

○福永さん : 昼も買いに行っている。「地元の店で買いなさい」と言っても自分のお金で買うので仕方がない。商売人の営業で頑張らないといけない。今日は何の会であるのか。議員が何かしてくれるのか。

○古野議長 : 商工会の会員から要望や意見をいただけるということでこの会をスタートさせてもらった。いただいた意見や要望については、政策に反映させたり、行政に繋いだりするのが我々の仕事である。そのようにお願いしたいと最初のあいさつでも話をさせてもらった。この会を開いたのも全員協議会の中で山上君が、廃業していく商店が続いているので、このままでは那賀町の継続が難しくなるので、商工会の皆さんに来ていただき、政策に繋いでいけたらというのが目的である。一般質問であったり、質疑の中で取り入れていくということを心がけている。

○山城会長 : 今の状態を変えていかなければ、本当に町内から店がなくなってしまう危機感がある。店を残していかないと商工会も存続が難しい。町の経済が破綻してしまうことになる。

○福永さん : 売上げを伸ばすということは商売人がやらないといけないことである。今、名前も「商工会」であるが、商工会だけでは持たない時代になっている。会員の中でも「農」も出てきている。だったら、「林」も入れたらよいと思う。「那賀町商工農林会」でもよい。そのような大きいところを議員にやってほしいと思う。建設業はどんどん補助金が入っている。我々小売業は公の仕事はない。

○山城会長 : 町版の個人に対して出せる補助金、創業支援はできないかなどを探ろうと考えている。

○福永さん : 言っていることは分かるが、物が売れないので、売れるようにどのようにしたらよいか。町内で買わないで町外で買い物をしている人が多い。それを町外に行かないようにはできないと思う。事業者の努力次第である。議員が来ているのであれば、違う発想でやってほしい。

○山城会長 : 会員の中からずっと言われていることは、行政自体ももう少し地元の商店や企業を応援できるように配慮してほしいということである。体育館を建

てるにしても時計の納品もない。他の業者に丸投げするのではなく、職員も色々な配慮をしてほしいと思う。

- 福永さん : 結論が出たら、坂口町長に来てもらわないといけない。
- 山城会長 : 議員からも町長の方へ強く訴えかけてほしい。
- 田中議員 : 行政側にこのような意見が出たと報告するだけである。
- 山城会長 : 別の機会に町長へ要望してみる。
- 新居議員 : 私もいつも地元で買えるものは地元で揃えてほしいと言っているが、阿南の業者と比べると値段的に負けてしまう。少々の差であれば、町内で買ってほしいと言っている。特に行政の方はそのようにしてほしい。
- 久川議員 : お願いであるが、生活する面において買い物弱者が増えている。平谷では折坂商店が移動販売をしてくれているが、ガソリン代もかかる。北川まで入ってくれているので、そのようなところに何か支援はできないかと思う。生鮮食品だけであるが、高齢者にしたらコメリで売っているような日用品雑貨もほしい。そのような支援を商工会でしてくれたらよいと思うがどうか。個人については町としてもバックアップしにくいと思う。商工会がやってくれると町としても補助しやすいのではないかと。週1回でも移動販売車で回ってほしいという要望がある。買い物弱者は困っている。
- 清野さん : 全国的にみても移動販売はやっているが、買い物弱者から見た場合、社会福祉の面が前に出る。しかし、商工会としても絡んでいきたいと思うが、経営がマイナスになれば、商売が繋がっていかない。利益を得る方法を商工会も考えて、移動販売を7月から上那賀地区に入らせてもらっている。買い物に一人で行けないおばあちゃんの「ありがとう」の一言を聞いて、この事業は何とかして継続していかないとはいけなかった。
- 山城会長 : 出前商店の事業を行っているが、折坂商店にチラシの折込代やちょっとした景品を出している。ガソリン代の補助は今まで考えたこともなかった。
- 前田さん : 全国ではとくし丸という移動販売車がある。うちの場合は、とくし丸と同じ車をリースで借りて、息子が、月、水、金に旧相生地域に入っている。とくし丸で採算が取れているところは、テレビで見ても都市部の大きな店のない郊外でかなりの人口がいるところを回って成立している。うちは昔、来てくれていたお客さんへのサービスのようで回っている。独自採算性でやれと言われても田舎では成立しない。
- 久川議員 : 買い物弱者はどうにかしてほしいと言ってくるので、商工会の補助はできないのかと思う。
- 山城会長 : ガソリン代の補助をしてくれたら非常に助かると思う。
- 福永さん : ナカ宅配も同じである。何の利益もない。
- 久川議員 : 最近、宮浜の農協の販売が中止した。
- 福永さん : なぜ、農協が全部やめて、よそにいつてしまうのか。行政がもっとしっかりしてもらわないといけない。ガソリンスタンドも相生の片山石油に行くか、阿南まで行かないとない。
- 久川議員 : 買い物弱者にとってみれば、最後には那賀町に住めないということになっ

ていく。

- 福永さん : 買い物弱者はよく分かる。そうならないために商店はナカ宅配や移動販売をやれと言っても損をする。損をさせないように行政の支援を考えないと何をやってもだめである。
- 久川議員 : 個人に補助をするのは難しいので、商工会という団体に補助をする。
- 田中副会長 : 貴重な意見ありがとうございます。今日出た意見を持ち帰り、検討したいと思う。今日、回答できなかった分については、町議会へ文書等で回答したいと思う。
- 静議員 : 小規模事業持続化補助金事業について、膨大な資料の作成が必要であるとおっしゃっていたが、資料作成について事務局の方で手伝えることはできないのか。
- 山城会長 : もちろん手伝っている。
- 静議員 : 手伝っているのであれば、それほど大変ではないのではないのか。
- 山城会長 : 大変である。
- 清野さん : 目的は販路開拓等に取り組み、お店の売上げを少しでも上げるための補助金になっている。事業に取り組むために3年なり、5年の事業計画を出さないといけない。今年はこの事業に力を入れて取り組みたいというような計画を立てる。ショーケースや機械がほしいなど事業計画書を作って、それに対して国から補助金が出る。「何がしたいと言われてもなあ」という店が多い。職員一人が5件抱えると他の業務もあるし、大変であるという面もある。
- 静議員 : 国が補助金を出すと、3年は廃業してはいけないというような縛りはあるのか。
- 清野さん : それは致し方がないとみている。
- 静議員 : 1事業者が年1回申請できるのか。
- 清野さん : 募集自体が年1回である。
- 山上議員 : 那賀町暮らし応援します券の換金手数料を見ると、他の券は無料になっているのに、町がしているこの券だけ換金手数料が会員1%、会員外3%になっている。この換金手数料を無料にできないのか。商店にとってみれば、消費税は10%になっているし、キャッシュレス化により、たいへん複雑になっている。もう少し分かりやすいように統一してくれたらよいと思う。
- 石井事務局長 : 手数料が会員1%、会員外3%になっている。実際に商品券の印刷代に20万以上かかる。チラシも作っているし、新聞の折込もしている。それぐらいは費用として最低限必要になってくる。町の補助金で検討してくれるのであれば、話は別であると思うが、町と商工会と取扱店が協力してやっていく中で、お願いしたいというところである。
- 山上議員 : 300万円が補助金になっている。これに30万円足してもらえば、手数料は無しにできるということか。
- 山城会長 : 会員にとっては、大変ありがたい意見である。印刷代の補助金も町からい

ただいている。

○石井事務局長：実際のところは町から330万円いただいている。広告代に60万円かかっている。

○山城会長：会員外の手数料はもらってもよいと思う。コメリや農協は会員外である。差別化しておいた方がよい。今日、議員の皆さんからいただいたリース車両代の補助やガソリン代の補助などの意見を検討したいと思う。

○田中副会長：今日は色々な意見をいただきありがとうございました。地元の商店で買ってもらうために購買意欲を下げないように事業をこのまま持続してやっていきたいと思う。また、買い物弱者の意見もたくさん出た。移動販売車の燃料代やリース車両代など福祉の面からしても出前商店など一層力を入れてやっていきたいと思う。時代とともに消費の仕方が変わってきている。商工の亭主、町民、行政が手を携えて那賀町の生活に関わる大事なことであるので、また、意見をいただきたいと思う。

○藤澤さん：私が住んでいる西部の台所であった徳田商店が廃業になった。これまで何人も人が前を通っていたのに今は本当に通らなくなった。店を営業するのは食べ物を供給するだけでなく、一人ひとりの安否や家族の方のこともその店で話をして共有する。いろんな情報を得る大切な場所がなくなってしまった。とくし丸が西部地区にも入ってきている。人数が少ないので、来なくなるかもしれないという不安がある。何がいけないのかと言えば、人間である。どんな商売でも人がいないから成り立っていかない。うちは燃料の仕事をしているが、人がいないので、売上げもだいぶ落ち込んでいる。自分の努力もあると思うが、人を呼ぶということをもっと行政の方に頑張ってもらいたいと思う。一番は人間である。人がいないと何もできない。今までも協力隊などいろんな人が来たが、どれだけの成果があったのかということは、まだ目に見えていないと思う。私たちの子どもやその次の時代に送るためには、那賀町、それぞれ5ヶ町村が消えたらいけないと思う。そのうち、なくなるかもしれないという不安は持っている。どうか、行政の皆さん、人を呼び込むをいうことにもっと力を入れて取り組んでほしいと思う。

○大澤議員：皆さん、長時間にわたり、色々な意見を聞かせていただき、ありがとうございました。我々議員も今日出た色々な意見を受け取り、行政に活かせるものは活かしていきたいと思う。商工会が活性化するために我々議員も買い物一つにしても町内の商店ですることが大事であると思った。皆さんの意見を無にしないように議会としても今後活かしていきたいと思う。辛口で結構である。これからも意見をいただきながら努力していきたいと思う。今後ともご鞭撻のほどよろしくお願いします。

○久川議員：これで意見交換会を閉会する。お疲れ様でした。

午後04時47分 閉会